

## 6. むすび

以上述べたところにより、わが技能界の若人は国際的にみて、実にすばらしいといえる。それは1名の国際大会メダリストのみに限らない。特に彼等のもつ技能の高い生産性はわが国工業の国際的競争力の大きな源泉となっている。

わが総訓生の技能も国際的にみると、訓練期間の割合に非常に高い水準に達していることが明らかであり、中には国際大会のメダリストたる可能性を持つものもある。したがって、総高訓における現行の2年訓練を3年訓練に改めると、国際水準以上の技能を持つ終了生を世に出しうることは確実である。

著者は、彼等が今後さらに技能に精進し、一般社会が彼等の寄与を高く評価し、経営者が彼等におくいることの多からんことを期待して結びとする。

なお本報は職業訓練大学校機械科学生、平原親夫君の卒業論文に著者が推敲を重ねたものである。平原君の竹を多とする。

本研究にあたり、技能五輪日本組織委員会および技能五輪全国大会委員会から貴重な資料の提供をうけた。また富士電気㈱、南清市氏および職業訓練大学校、太田博治講師から貴重なご協力・ご助言をいただいた。

ここに深く感謝の意を表します。

### 文 献

- (1) 技能と技術；1/1971、Vol 6
- (2) 雇用促進；7/1970、Vol 3、No. 7
- (3) 古賀一夫；職業訓練大学校、調査研究報告書 10号（昭42）
- (4) 古賀一夫；同上 16号（昭43） P 1
- (5) 古賀一夫；同上 7号（昭41） P 48、P 60
- (6) 古賀一夫；同上 9号（昭42）
- (7) 古賀一夫；同上 18号（昭44）